

(前半だけ読みます。残りの文章にも目を通してください。)

### 「この夏に学んだ感性の法則」 (ニュートンとは無関係です)

この夏、ある研究団体のレポーターを引き受け、某学校へ行かざるを得なくなりました。

当日、大きな駅の新設の改札口で駅員から地図を受け取り、会場へと向かった。要所要所が明記された地図のおかげで、迷うことなく最後の直線道路にたどり着くことができた。

地図によれば、この道を歩いて行くと目的地の学校に着くらしい。

しかし、朝から「命の危険」を感じるほど気温が上昇する中、1分でも早くたどり着きたい、という気持ちと道路の先に全く学校らしき建物

が見当たらない、という不安感、そして、この暑さの中、あとどれだけ歩けば良いのだという焦りの感情もあった。

すると、反対方向から4～5人の会場校の生徒と思われる女の子達が歩いてきた。

「〇〇校はこの先でいいんでしょうか。」

「はい、そうです。」先頭の子が答えてくれた。

すると、一番後方の、目立って背の高い女の子が後方を指さしながら、口を開いた。

「この道のずっと先に青い屋根の大きな家が見えますね。その家の裏側に学校があります。」

---

私が安堵したのは言うまでもない。

今は見えないけれど、教えてもらった青い屋根の家を目標に歩いて行けば、必ず目的地にたどり着ける。

---

私に行き先を教えてくれた女生徒は、老人への親切心から丁寧に教えてくれたのかもしれない。しかし、もし、「見えない目標へのたどり着き方」を本人自身が日頃の授業を通じて学び、身につけていたとしたらどうであろうか。「学び方」を教えることは教師の仕事として大切である。そして、「学びの主体＝子ども」の学習時の感性をとらえ、それに対応した、適切な示唆、指導、援助をしていくことも教師の役割ではないか？

今までの自分自身を振り返ると、どちらかという学習内容の系統性や順次性を重視して研究してきたように思う。しかし、この夏、改めて、学習時の子どもの心理状況、子どもの感性にも目を向けて授業の組み立て、見直しをしていくべきである、と実感した次第である。

#### 【「アンケート」にご協力ください】

今後の教研の参考（物理教育の問題点、あり方を考える）にします。ご協力をいただければ、と思います。アンケート理由は高校の理科の分野（物理・化学・生物・地学）で小学校の先生方の多くにとっては「物理」（電気、力、運動 等々）が不人気であると感じています。

※ 小学校に勤務されている先生方、記入の上、切り取ってお渡しく下さい。宜しくお願いします。

----- キリトリ線 -----

年代に○をしてください。 ( 20代 30代 40代 50代 60代 )

1. 物理を履修しましたか ( した しない )
2. 物理を履修しなかった場合の理由 ( 物理が選択肢の中になかった 他の分野を選んだため )
3. 「他の分野を選んだ理由」 ( ・物理は難しいので ・物理を学ぶ必要を感じなかった  
・他の分野を選んだら選ぶ余地が無くなった ・何となく )

アンケートの結果から（小学校に勤務の先生限定）

1. 高校で物理を履修したか否か				
	20代	30代	40代	50代
した	4	6	1	2
しない	3	4	1	

2. 履修しなかった20代の3名

- 選択肢の中になかったから・・・1名
- 他の分野を選んだから・・・必要を感じなかった・・・2名

3. 履修しなかった30代の4名

- 選択肢になかったから・・・3名
  - ・選ぶ余地が無く、化学と生物を選んだ（文系だったので）
  - ・1名（物理を学ぶ必要性も感じなかった）
  - ・
- 他の分野を選んだ・・・1名
  - ・物理は難しいので

4. 履修しなかった40代の1名

- ・他の分野を選んだら履修の余地が無くなったので

5. 履修はしたけれど（50代）

- ・物理Iのみでした。

【 メ モ 】